

「ニッポン一億総活躍プラン」フォローアップ会合・
働き方改革フォローアップ会合 合同会合 提出資料

大日方 邦子

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開幕が、421 日後に迫ってまいりました。

私は、この東京大会を「日本が世界に、新しい働き方を示す絶好の機会」と考えています。

東京 2020 大会では、8 万人のボランティアが大会を支えます。ボランティアに応募した 6 割が女性、4 割が外国籍、そして障害のある方も応募するなど多様な人材が集まっています。

2012 年ロンドン大会では、3000 人の障害者がボランティアとして活動しました。聞こえにくい障害のある方が健聴者とペアを組み、空港で荷物を運ぶサービスをし、また、車いすユーザーは腕だけで運転できる手動装置をとり付けた自動車で、選手や観客の輸送を担いました。

これはまさに「誰もがそれぞれの個性を活かして、やりがいをもって活躍できる社会をつくる」という一億総活躍社会の精神に合致する取組であり、東京大会でもぜひ推し進めてほしいと考えます。

障害のある人や育児をしながら働く女性、外国人など、多様な人材が共に働くために必要な工夫は何か、そしてどのような相乗効果が生まれるのか。東京 2020 大会が、そのためのアイデアを活用するチャレンジの場となり、好事例が広く発信されることを期待しています。

(以上)